彦根城博物館だより 117

2017.6.1

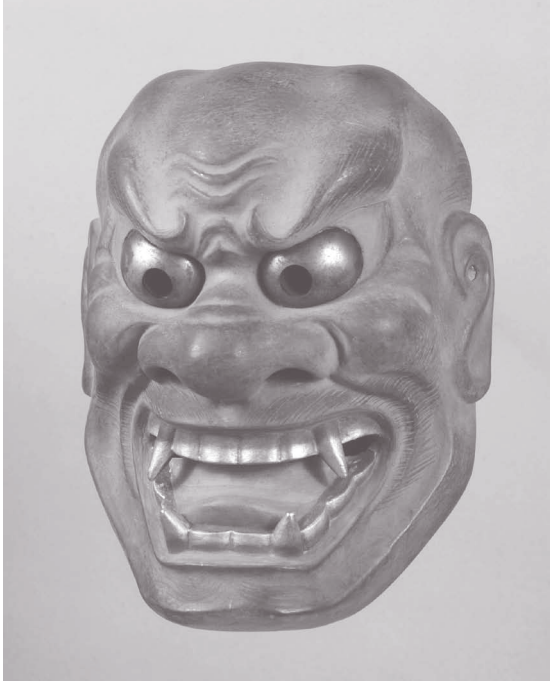
Hikone Castle Museum News

企画展

国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業

能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦

6/23(金)〜7/25(火)



能面 蜘蛛
中村直彦 作
本館蔵

近代を代表する能面作家の一人、中村直彦（一八七七〜一九四五）が、鬼神の面である顰を元に創作した面。能〈土蜘蛛〉のシテ（主役）である妖怪・土蜘蛛に使うことを想定したものと考えられます。

全面を朱彩色とする顰に対して、この面は濃い群青色。より大きく作られた口からは、顰には無い真っ赤な舌が覗き、上下の牙はさらに長く鋭く作られています。一層恐ろしさが増した、まさに悪鬼に相応しい面と言えるでしょう。直彦はこの面以外にも、役柄にあわせて造形を工夫した創作面を作っています。

面裏の焼印「中村直彦」

展覧会情報

テーマ展
煎茶 ―文雅清遊のいとなみ―
5月19日 ▼ 6月20日

企画展
国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業
能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦
6月23日 ▼ 7月25日

テーマ展
日本刀鑑賞のススメ ―井伊家伝来名刀尽―
7月28日 ▼ 9月5日

テーマ展
雅な遊び
9月8日 ▼ 10月11日

展示案内 6月～9月

常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

5/19（金）～6/20（火）

煎茶（せんちゃ）

―文雅清遊（ぶんがせいゆう）のいとなみ―

煎茶は、抹茶とは異なる自由な作法や道具立てに特色があり、江戸時代中期以降、文雅清遊を愛する文人達を中心に大いに流行しました。

その流行は大名家にもおよび、井伊家十二代直亮（なおあき）や十三代直弼（なおすけ）も、煎茶を嗜んだことが知られています。

本展では、井伊家伝来品を中心に、当館所蔵の急須や煎茶碗、水注など、煎茶道具の優品を紹介します。

紫泥六角水注

◉ギャラリートーク◉

■日時　5月20日（土）11時～、14時～

■講師　奥田 晶子（当館学芸員）

企画展　展示室1

6/23（金）～7/25（火）

国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業

能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦（なかむらなおひこ）

中村直彦（一八七七～一九四五）は、明治後期から昭和前期に活躍した能面作家です。東京美術学校で彫刻を学び、伝統的を踏まえつつ、新たな感覚の能面を制作しました。当時、制作する者がほとんど無く、能面は廃（すた）れかけていました。それを再興した立役者の一人が、直彦です。能を愛好した井伊家十五代直忠（なおただ）（一八八一～一九四七）はそのパトロンの一人です。本展では、直彦の能面とその活動について紹介します。

能面 小面　中村直彦作

◉ギャラリートーク◉

■日時　6月24日（土）11時～、14時～

■講師　茨木 恵美（当館学芸員）

テーマ展　展示室1

7/28（金）～9/5（火）

日本刀鑑賞のススメ

―井伊家伝来名刀尽（づくし）―

独特の反りをもつ日本刀。武器としての機能はもちろん、その美しさは国内外で高く評価されています。しかし、いざ鑑賞するとなると、難しく感じる方も多いのではないでしょうか。

本展では、刃文や地の文様の見方、制作された時代や土地による違いなど、日本刀鑑賞のポイントを、収蔵品を例に解説します。伯耆国宗（ほうきくにむね）、備前国宗（びぜんくにむね）（二代）をはじめとする井伊家伝来の刀剣が見せる豊かな表情をご堪能ください。

太刀　銘 国宗（備前二代）

◉ギャラリートーク◉

■日時　7月29日（土）11時～、14時～

■講師　古幡 昇子（当館学芸員）

テーマ展　展示室1

9/8（金）～10/11（水）

雅（みやび）な遊び

古来、宮中で愛された詩歌管弦（しいかかんげん）をはじめとする種々の雅な遊びは、武家にも広く取り入れられ、親しまれてきました。その内容は、蹴鞠（けまり）や競馬（くらべうま）、流鏑馬（やぶさめ）、楊弓（ようきゅう）など、多岐にわたります。

本展では、井伊家伝来品を中心に、碁盤や香道具、雅楽器、鳥籠（とりかご）など、雅な遊びにまつわる品々を紹介します。

黒漆塗笹唐草蒔絵碁盤

◉ギャラリートーク◉

■日時　9月9日（土）11時～、14時～

■講師　奥田 晶子（当館学芸員）

研究余録

金亀玉鶴

松原湊の米宿

彦根藩領三十万石のうち、近江国内の二十八万石の領地は、琵琶湖の北側から東側の地域一帯に広がっていました。毎年、領内の村で収穫された米の半分近くが、年貢として彦根藩に上納されました。年貢米は、彦根城内の松原御蔵と御用米御蔵、彦根城下の藩士屋敷に納められました。年貢米の運送には陸路と水路が使われ、多くの年貢米は、琵琶湖を舟で、彦根城まで運ばれました。

年貢米上納の経路で、重要地点であったのが、彦根城の北に隣接する松原湊（現在の彦根市松原町）でした。松原湊には彦根城と城下の藩士屋敷に上納される米が運び込まれ、また、藩が大津で売りさばく御蔵米がここから出荷されました。

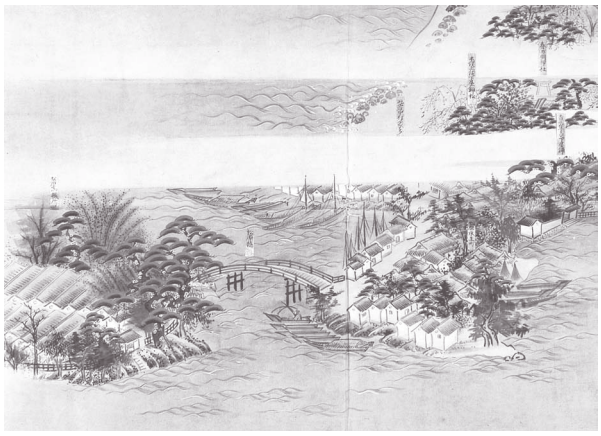
江戸時代後期の十八世紀末に描かれた「玄宮園外図」（当館蔵）に、当時の松原湊の景観を見ることができます（写真）。中央の橋は、琵琶湖と松原内湖を結ぶ前川に架かる松原橋。向かって左側が彦根城側で、藩の松原御蔵が棟を連ねています。この蔵には、主に藩主直轄地からの年貢米が納められ、保管されました。一方、橋の右側が松原湊です。橋の向こう側（琵琶湖側）には帆柱を立てた丸子船が、また橋の手前（松原内湖側）には、艜舟が繋留されています。さらに続けて画面を眺めると、水路沿いに白壁の土蔵が建ち並び、独特の景観を形成していたことがわかります。

これらの土蔵は米蔵で、米宿という倉庫保管業を営んでいた松原湊の住民たちが所有していました。天保十一年（一八四〇）の「松原村御除地絵図」（彦根市立図書館蔵）では、前川沿いに三十六軒の土蔵があったことが確認できます。年貢米を納める村人らは、俵米を船積みし松原湊に運び込み、一旦、俵米を米宿に預けた上で、日を改めて藩の御蔵や城下町の藩士屋敷に納入しました。上納先が複数あり米の仕分けが必要であったり、御蔵への米の納入に時間がかかったため、米を一時保管する場所が必要となり、そこに保管料を徴収する米宿が職業として成立したと考えられます。

彦根藩による松原湊の家数調査では、享保十二年（一七一七）の同村全体の土蔵は三十四軒でした。それが天保十五年（一八四四）には百三十八軒と四倍あまりに増えています。この期間に家数も九十二軒増えているので、これに伴う土蔵の増加もあったはずですが、前川沿いの米宿の土蔵も急増したものと考えられます。

では、なぜ米宿の土蔵が増えたのでしょうか。そこには、寛政二年（一七九〇）に始まった「年皆済」という彦根藩の年貢納入制度の影響があったのではないかと考えています。従来、村から藩に年貢米を納める期限は毎年十一月二十日とされ、期限内に上納できない場合は、翌年の七月末が最終期限でした。ところが、「年皆済」制度では、年内十二月中に年貢を全て上納しなければならないとされました。この結果、領内の村々から集まる年貢米が短期間に集中し、松原湊に仮置きする俵米の量が増える事態となったと考えられます。「米宿」の土蔵の増加は、この需要を満たすものであったと推測されます。まだ仮説ですが、このような経過で、松原湊の米蔵の景観が形作られたと推測しています。

（渡辺恒一）



江戸時代後期の松原湊の周辺（「玄宮園外図」部分）

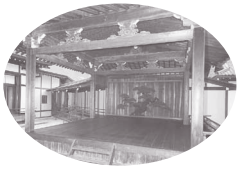
能・狂言

◉水無月狂言の集い◉

■開催日時・場所
6月24日（土）18時開演（17時30分開場）
当館能舞台

■演目
大蔵流狂言　【解説】茂山　宗彦
「船渡智」茂山　童司
「伊文字」茂山　逸平
「梟」茂山　千作

■チケット
全席指定
A席（正面席）3千5百円
B席（脇正面席）3千円
5月24日発売開始



◉第51回彦根城能◉

■開催日時・場所
9月2日（土）16時開演（15時30分開場）
当館能舞台

■演目
【お話】馬場あきこ
観世流仕舞「三井寺」片山九郎右衛門
大蔵流狂言「鎌腹」茂山　千三郎
観世流　能「卒塔婆小町一度之次第」大槻　文藏（人間国宝）

■チケット
全席指定
A席（正面席）5千5百円
B席（脇正面席）5千円
7月7日発売開始

＊開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。
＊チケットは当館受付およびお電話にてお求めいただけます。
（発売初日は、館内販売9時～、電話予約10時～）
＊未就学児の方はご入場いただけません。

スケジュール 6月～9月

6月

- 10土 教室 古文書のみかた③
- 24土 能・狂言 水無月狂言の集い
- 24土 ギャラリートーク 能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦

7月

- 1土 教室 古文書のみかた④
- 22土 教室 古文書のみかた⑤
- 29土 ギャラリートーク 日本刀鑑賞のススメ ―井伊家伝来名刀尽―

8月

- 19土 教室 古文書のみかた⑥

9月

- 2土 能・狂言 第51回彦根城能
- 9土 ギャラリートーク 雅な遊び
- 16土 教室 古文書のみかた⑦

テーマ展	企画展	テーマ展	テーマ展
煎茶 ―文雅清遊のいとなみ― 5/19～6/20	能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦 6/23～7/25	日本刀鑑賞のススメ ―井伊家伝来名刀尽― 7/28～9/5	雅な遊び 9/8～10/11

常設展示 “ほんもの”との出会い

6/21・22 展示替により一部休室

7/25－27 展示替により一部休室

9/6・7 展示替により一部休室

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

◉キッズサマースクール◉

7・8月に、狂言や茶道などの伝統文化や歴史に親しむ「キッズサマースクール」を開催します。バラエティに富んだプログラムを準備しましたので、ふるってご応募下さい。複数コースの応募も可能です。

【内容・日程】

①狂言教室（小学5・6年生対象）

■日程
8月6日（日）、7日（月）、8日（火）、11日（金）、12日（土）、13日（日）の午後2時30分～4時30分、14日（月）の午後1時～4時30分（予定）

■講師
和泉流狂言師
小笠原 匡氏 ほか

■定員 12名
（応募者多数の場合は抽選）

■傷害保険料 200円

②茶道を楽しもう（小学1～6年生対象）

■内容 御殿の座敷でお茶の体験します

■日程
7月8日（土）
1～3年生：午後1時30分～3時30分
4～6年生：午前10時～12時

■講師 当館学芸員

■定員
1～3年生、4～6年生：各20名
（応募者多数の場合は抽選）

■傷害保険料 100円

③御殿の起し絵をつくろう（小学1～6年生対象）

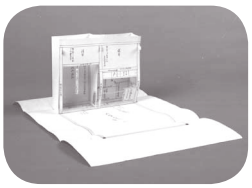
■内容 昔の絵で殿様の部屋について学びます

■日程 7月9日（日）
1～3年生：午後1時30分～3時30分
4～6年生：午前10時～12時

■講師 当館学芸員

■定員 1～3年生、4～6年生：各20名
（応募者多数の場合は抽選）

■傷害保険料 100円



【会場】 当館（能舞台・講堂・木造棟 他）

【対象】
原則として彦根市・米原市・豊郷町・甲良町・多賀町・愛荘町に在学する小学生

【申込方法】
各小学校に配布、もしくは当館ホームページに掲載する案内チラシの申込用紙に記入し持参・郵送、またはホームページのいずれかの方法でお申し込み下さい。

【申込期間】
6月1日（木）～6月16日（金）必着

世界遺産
彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登載されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://hikone-castle-museum.jp/

この印刷物は8000部作成し、印刷単価は７円です。